



人と触れ合えるこの仕事が好きです

「私は、皆さんに元気をお届けしています。」そう話すのは、育児の傍ら、ヤクルトの宅配員としても奮闘する今野さやかさんです。

根室市では、70歳以上の一人暮らしの方を対象に、乳酸菌飲料の宅配による声かけ事業を実施しています。その中で今野さんは5地区、33世帯を担当し、お年寄りの健康状態などを気かけながら、優しい笑顔で乳酸菌飲料を手渡します。サービス利用者は、そんな今野さんが訪れる日をもいつも心待ちにしているようです。

コミュニケーションを大切に

にしている今野さんは、お年寄りにとって良き話し相手になっていきます。世間話や相談など、自然と会話が弾み、玄関先はいつも朗らかな雰囲気になります。「今日もご苦労さん。いつもありがとね。」と利用者から温かい言葉をかけてもらえることが、お互いに健康で過ごしていることの喜びと、仕事のやりがいを与えてくれるといいます。

「明るく元気に接して、利用者との触れ合いをもっと深めたいですね。」と語る今野さんの両手から優しく手渡されるぬくもりは、お年寄りの心の支えとなっています。



訪問先では楽しい時間が流れます

profile 今野 さやか さん

ヤクルトレディー

1982年根室市生まれ。平成21年4月、釧路ヤクルト販売株式会社根室出張所スタッフとなり、人との交流を深めることをモットーに勤務に励む。2児の母で、子どもと楽しく遊ぶ時間を何よりも大切にする。

千島桜を望む窓

市長室のカレンダー

「赤い羽根共同募金運動」が10月1日から全国で一斉にスタートし、根室市内でも根室市共同募金委員会による街頭での募金運動が、市内大型店舗前など6カ所で行われました。

赤い羽根共同募金は、市の福祉事業などに還元されるもので、今年度の目標額は480万円です。長谷川市長は、根室市共同募金委員会の大畑会長や社会福祉協議会の一篠会長、根室高校ボランティア局の皆さんなどと一緒にポスフル根室店前に立ち、「ご協力をよろしくお願いします。」と呼び掛けました。



長谷川市長の熱心な呼び掛けにひかれ、かわいらしい女の子を連れた親子が歩み寄り、小さな手からの募金に、長谷川市長は「どうもありがとうございます。」と笑顔で応えます。女の子は、長谷川市長が持っている赤い羽根に目を向け、「早くちょうだい」としきりに手を伸ばします。すぐに赤い羽根を女の子に手渡すと、「やったー。」と大喜び。その光景に、お母さんや募金運動参加者も心が和む一場面も。「市長さん、がんばってね。」と、ひとときの触れ合いに女の子から笑顔のメールが送られると、長谷川市長はとびっきりの声援に添えるように、たくさんの人に募金の協力を呼び掛けていました。